
花屑プロローグ5 花屑の日常

霧香 陸徒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花屑プロローグ5 花屑の日常

【Nコード】

N3890D

【作者名】

霧香 陸徒

【あらすじ】

芽衣の所属する「花屑」には少し変な人達が居た。それでも、大切な仲間……。

【樟葉 菜乃】

名前：くずは なの

通称：魔王 スクラップドフラワー ナノ隊長

性別：女

年齢：19歳

性格：温厚（基本的に）

使用TAM：TAM-01

【久々知 智亜子】

名前：くくち ちあこ

通称：ちゃーこ 逆噴射式暴発娘

性別：女

年齢：16

性格：活発

使用TAM：TAM-02

【香良洲 魅夜】

名前：からす みよ

通称：みや 才能の悪用

性別：女

年齢：17

性格：楽観主義

使用TAM：TAM-03

【醍蟬 千代】

名前：だいぜん ちよ

通称：せん 馬鹿せん（智亜子の弁）

性別：女

年齢：15

性格：能天気

使用TAM：TAM - 04

【天宮院 香具羅】

てんぐういん かぐら

通称？：かーたん 戦場の青薔薇（自称）

性別：女

年齢：19

性格：現実主義

使用TAM：TAM - 05

基地内廊下

私は名前を覚えるのが苦手だったから、このメンバーリストを持つようにした。

これで少なくとも名前は思い出す事が出来る。

私は芽衣。16歳でTAM - 07に乗る射撃手だ。

「西の国」の部隊「花屑」に所属し、「東の国」からの進行を最前線で食い止めるのが私達の任務だ。

小さな基地とたった6体のTAMで守りきらなくてはならない。

・・・6体？

私は今まで気にならなかったが、こうやってリストを見て始めて気が付いたことがあった。

それは

「やつほお！ 芽衣ちゃん なにに辛気臭い顔してるのかなあ？」

そう言っただけから私の胸を鷲掴みにしながら元気な女の子が現れた。

「こういう行為をちゃーこはしない・・・。」 となると・・・。

「・・・みや。 何？」

「うつわ！？ この娘また大きくなっちゃった！？ この前まで私と同じぐらいだったのに！ 我がつるぺた同盟に反する所存であるぞ！ ええいゝ握りつぶしてくるう！」

「い・・・痛い・・・みや」

「純朴そうな顔してそんなだから整備員のヤツラにオナペットにされるのだよ！ 嫌なら抵抗してみろー ほれほれほれ」

「・・・だから痛いって・・・。 やめて・・・。」

イキナリこんな事をもし男にされたら訴えてやるのに、生憎相手は女だ。

香良洲 魅夜ことみやだった。 セミロングの髪はいつも悪戯に跳ねている。

とゆうかオナペットってなんだろう？

「貴女達！ 何やってるのよ！ ここは公衆の面前よ！？」

そこに顔を赤くして長いツインテールを振り乱して立っていた。

「んんん？ ああかぐらたんじゃないの。 おはよー」

「そこお！ 「たん」とか付けるなあ！ 私は戦場の青薔薇 天宮院 香具羅よ！」

ビシッ！と仁王立ちと言う様はちよつとかっこいいかもしれないけど・・・それより助けて欲しい。

「妬いてるのは分かったから、後でベットで待っててね。 気持ちよくしてあげるから」

「ば、馬鹿じゃないの！？ それで良くNo.3が務まるわね！？」

「いやいやいや、ナンバーなんて適当に並べただけであって、別に実力がどうこうって番号じゃないのだよ香具羅君。 まあ、その辺

りの事はピロトークを交えて詳しく教えてあげようか？」

「だ・か・ら！　そういう破廉恥な事を言わないでって言うてるでしょう！？」

「つれないなあ。　分かった。　とりあえず芽衣で我慢する」

「……我慢しないでいいですのでやめてください」

少し泣きそうになりながらそう呟いたが、みやは全く聞いていない。　こねこねと私の胸をもみ続ける。

「めええいちゃああああん」

「うわあ！」

「きゃ！」

そこにまた一人闖入者が現れた。　声とともに飛びついてきて、私とみやと一緒にもつれ合うように転んでしまう。

「いたたた……。　せん？」

「うん　せんちゃん推参」

なにやらピースサインをしながら立ち上がるおさげの女。　名前はチヨのハズだが、何故か「せん」と呼ばれる。

みや曰く、同盟名誉会員だそうだ。

「こらあゝゝ！　何してるなの！」

騒ぎを聞きつけたのか、ナノ隊長の怒鳴り声が廊下の端から響いてきた。

「いやん！ 隊長来ちゃった！」

「あ、コラ！ 逃げるんじゃないわよ！？ 待ちなさいみや〜」

「あれえ？ 今度はかけっこするのお？ 私も行〜」

「……………」

「大丈夫？ 芽衣」

私に手を差し伸べてくる隊長。 その手を掴んで立ち上がる私。

「……………はい。隊長」

「そう。 全く、問題児ばかりで困ったものの」

「…………問題児…………ですか？」

「そうよ？ みやはあんな性格だし、せんちゃんは何も考えてないように振舞うし、かーたんは自分の気に入らない作戦はやらないし…………。 芽衣。代わりに隊長してくれない？」

「…………無理。 私にはその技量も人徳も無い」

「…………分かってないなの。 皆芽衣が好きなのに」

「……………。 私は隊長は隊長がいい」

「嬉しい事言ってくれるじゃないの。 でも、私に何かあったら貴

女が隊長をやってね。これは命令なの。」

「……………隊長」

隊長が悲しい事を言うので少し泣きそうになってしまった。それを見て隊長は慌てて両手を振って訂正した。

「ああ泣かないで!？ 冗談なの。可愛い芽衣を置いて逝くなんてあるわけないなの。」

もちろん本気にしたわけじゃないし、魔王の最強ぶりを知っているのでそんな事はあるわけないと思っているが、悪いように考えてしまつと一気に妄想が膨れ上がってしまった。

「……………はい。分かってます隊長……………」

「うん。よろしい。でも、さっき言った事は本当なの。芽衣はとても出来た子なの。」

「……………ありがとうございます」

「きゅんきゅん　照れながら微笑む芽衣可愛い……………」

そう言つとナノ隊長は私を抱きしめてきた。…………何かのスイツチが入ったのか。

「……………隊長……………ちょっと苦しいです」

そう抵抗するが、特段嫌では無いのでされるがままになっていた。

「お前等ツツコむ奴居ないんかいーーーー！！」

「どぎゃーん！」

「はう……」

声とともに「飛び蹴り」をナノ隊長に食らわせたのはちゃーこだった。

この娘、隊長だろうとなんだらうと物怖じしないで蹴り倒す猛者だ。

……その後どんな仕返しがあるか分かっているのにやってしまう猛者だ。

「ちゃーこおおお。人の頭はサッカーボールじゃないの。
……滅殺」

「ちょ……ボケに突っ込んで反撃されるなんて自然の摂理に反して
と思うんだけど！今日は負けな……きゃわーーーー
ーーーー！？」

ああ……、今日も結局そうなるわけだ。ちゃーこは。

……なににせよ。

今日も「花屑」は平和だった。

そんな事より、さっき気が付いた事……。今度隊長に聞いて
みよう。

何故TAMが・・・ TAM-06が欠番しているのかを・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3890d/>

花屑プロローグ5 花屑の日常

2010年10月10日04時24分発行